

「食品を介してヒトの健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度ランク付けについて（平成 18 年 4 月 13 日食品安全委員会決定）」  
の改訂の検討について（2 回目）

## 1. 経緯

令和 3 年 7 月 29 日に開催された第 33 回薬剤耐性菌ワーキンググループ（WG）において、食品を介してヒトの健康に影響を及ぼす細菌に対する抗菌性物質の重要度ランク付けについて（平成 18 年 4 月 13 日食品安全委員会決定）（以下「重要度ランク」という。）の改正について審議を行った。

### （1）第 33 回 WG の結論

- 現行の基準は変更しない。
- ランク付けは「系」を基本とし、特に記載が必要な場合は個別の抗菌性物質を記載する。
- WHO や他国のようにランク付けの理由を重要度ランクに含めることはしない。透明性確保のため、ランク付けの変動理由は事務局がまとめて後日 WG の資料として共有する。
- ランク付けについて、以下に合意。
  - 既に市場流通をしていないという理由から「ストレプトグラミン系に属するもの」及び「アストロマイシン系に属するもの」を削除
  - 具体性に乏しいという理由から「深刻な疾病の原因菌に対して抗菌活性を有する新しい抗菌性物質」を削除

### （2）次回以降継続審議となった事項

- フィダキソマイシン（18 員環マクロライド）のランク付け  
宿題：共耐性に関する情報提供（荒川専門委員）
- $\beta$ ラクタマーゼ阻害薬配合剤のランク付け  
宿題： $\beta$ ラクタマーゼ阻害薬配合剤の取扱いについて討議文書を準備（事務局）
- ガチフロキサシンを含むコメントのあった個別抗菌性物質に関する審議  
宿題：ガチフロキサシンの販売状況を確認（事務局）
- セフェム系の単剤の審議  
特にセフェム系について、その抗菌活性が 2004 年作成時から低くなっており、それが代替薬の有無に影響を及ぼしている。包括的にランク付けの検討をすべき。  
宿題：特に検討が必要だという成分について選定（池専門参考人）

## 2. 第 34 回薬剤耐性菌 WG の審議及び目標

- 資料 4 の重要度ランク改正案について 1. (2) の点を審議。可能であれば作業を完了させる。
- 資料 7 の評価指針の改正案について審議。重要度リストに関連する改正について合意する。

## 3. 留意事項

- 食品健康影響評価に使用することを目的として重要度ランクを作成。
- ランク付けの対象はヒトの医療において使用される主要な抗菌性物質全般。
- ランク付けの基準は「代替薬の有無」。

## 4. 今後のスケジュール

評価指針の改訂に合わせて食品安全委員会に報告をする予定。9月 17 日を含めて 12 月までに計 3 回の WG<sup>1</sup>を開催し審議完了を目指す。

---

<sup>1</sup> 9月 17 日、残り 10 月～12 月に 2 回を開催予定